学校文化に風を

P市Q学園コミュニティスクール委員会へのコンサルテーション

提案

- 「楽しい職員室を作るプロジェクト」のための教員研修を提案

→教育長からの紹介とはいえ、多忙のために学校内で新しいことは教員の反発も考えられ、提案しにくい状況

→何か役に立てるところで関わる

→予定されていたコミュニティスクール委員会の熟議のコーディネートを依頼したい。

準備から参加へ

- CS委員会オブザーバー参加2回

  地元の施設職員も参画

  堂々巡り→出席者全員の意見が尊重されると実感できる会議にしよう
- CS委員会熟議：震災で中止
- これまでの委員会の内容のまとめ方を提案
- 7月、8月の2回のコーディネート要請

  テーマ：防災・人材活用

熟議のコーディネート

防災対策

- 災害時に学校にのぞむこと
- 今不安なこと、困ること
- その不安に対応するのは誰か
- CS委員のすべきことは何か

地域の人材活用

- 地域をどういう環境にして、子どもをどんな人に育てたいか？
- そのために、どんな人材が必要か？
- 学校とコミュニティは何をしたらいいか？

熟議のコーディネート

見せたこと

- 全員参加
- フラットな意見の交換
- 記録の残し方、まとめ方
- テーマの出し方
- 地域、PTA、学校、其々の役割の明確化
- できることの整理

結果

- ミニ熟議の実施
  →新しいプロジェクトの立ち上げ
- 会議方式の転換
  →フラットな意見交換
- PTAに希望とやる気
- 教員もCS委員会に意義を認めるようになる

アンケート結果（1）変わったこと

- 2回の熟議の満足度平均　７５％
  （これから本当に変わるの？という疑念）
- 自分たちの意見を率直に述べられた。
- みんなの意見を聞けた。
- 信頼感が増した。
- 問題意識が高まった。
- 情報量が増えた。
- 的を絞って活動を進めるきっかけができた。
- 気づきが共有された。
- 交流ができ、考え方や人間性がわかった。
- 意見を交換するきっかけができた。
- 討論ができつつある。
- 心が一つに。
- 関わりが深まった。

アンケート結果（2）感じたこと

- 先生から多くの意見が出た。
- もっと話し合いの場を。
- 様々な考え方があることが分かった。
- 視野が広がった。
- ファシリテーターが進めてくれて中身が濃かったが、今後また元に戻るのでは？
- グループを変えるおもしろさ。
- ファシリの重要性。
- 話し合いの大切さ。
- まとめる難しさ。
- 時間不足、何度もやる必要がある。
- 考えなければならないことがわかってきた。

アンケート結果（3）考えたこと

- 前向きになれた。
- もっと多くの人と話し合いたい。
- 全員の意見が吸い上げられた。
- CSの役割は何か考えることができた、が、難しい。
- 意見を知る方法と整理の仕方。
- 専門家がいないとできない。
- みんなが同じ問題に取り組んでいく重要性。
- 自分だったらどうするか。

アンケート結果（4）
これからしたいこと

- サポートのあり方
- マニュアルの作成
- できる範囲で少しずつ
- もっと活発に
- 子ども塾議など様々な場面で実践
- 地域のつながりの強化に大切なこと
- 防災について地域で考える
- 有効な会議
- 保護者の実態を伝えたい
- 互いの立場を理解して、自分ができることをしたい
- 多方面から考えたい

アンケート結果（5）ファシリテーターグループに臨むこと

- 年に2回伝来てほしい
- 何回かやってほしい
- またこういう機会を
- また来てほしい×2
- 今後も機会があればお願いします。
- ファシリテーターの要請をしてほしい
- コツを伝授してほしい
- 講評して下さい

まとめ

- 2回のみのファシリテーションで、会議のあり方が変わった。

→　不満を持っていたPTAが希望を持ち、動きだした。

→　教員も発言するようになった。

- コミュニティの側から学校を変えていく可能性・手ごたえが得られた。
- 学校との多様な関わり方の可能性が見えた。
- 関係性の継続の難しさ

→予算がつかず、積極的働きかけができずに2回で終了。

- 報告はこれから。しばらく時間をおいて再開もありか？